

ひるば

優良公民館紹介

第72回優良公民館(文部科学大臣表彰)

大分市大分中央公民館

大分中央公民館 館長 田辺 義秀

本地域は、大分市の都心部の再開発により、大型マンションの建設も進んでいる。そのため、若い子育て世代の転入者も多く、住民同士の絆づくりが大きな課題となっている。一方、地域の方々の中には、ボランティアで若い子育て世代を支える活動を実践したり、乳幼児とその保護者を対象にした「子育てサロン」を開催したりしている校区もある。

このような状況をふまえ、本館では「子育て世代と地域住民をつなぐ」ことをめざした事業を、心の通い合うまちづくりの一環として展開している。

① 託児ボランティア養成講座(後期3回)

地域で子育て支援を実践されている方や、子育て支援に興味関心を持たれている方を対象に、託児や保育に関するスキルアップやネットワークづくりを目的にした講座である。乳幼児の発達段階を学ぶ講義、幼児救急法、人形を使ったおんぶ実技等、実践的な内容を取り入れた。



② 乳幼児家庭教育学級

「ひよこの森」10か月〜2歳未満(通年15回)
「あひるの広場」2歳〜4歳未満(通年12回)

年齢・月齢にあわせ、親子のふれあい、保護者同士の仲間づくり、地域の子育て支援者との出会いの場づくりとなる活動を取り入れた講座である。

③ 子育ての集い(八月1回)

未就学児とその保護者対象の親子ふれあい遊び、子育て中の親と子育て支援者との交流の場づくりを目的とした講座である。

※②、③の講座には①の講座の参加者に託児ボランティアとして参加してもらった。

④ 中央地区子育てネットワーク会議(二月1回)

地域の子育て・家庭教育支援についての意見交流や情報交換を行う場であり、1年間の「子育て支援事業」についての反省と次年度の取組について話し合う場でもある。

地域の主任児童委員や放課後児童支援員にも声をかけ、ネットワークの核となっていた。



今後は、この表彰を励みとし、生涯学習の拠点として、地域まちづくりの要として、公民館活動のさらなる充実をめざしていきたいと考えている。

公民館関係職員研修会

テーマ別研修会①

テーマ別研修会②



公民館関係職員研修会

期 日 令和元年5月30日(木)
会 場 由布市庄内公民館 大ホール
参加者 県内各地の公民館関係者
 及び社会教育関係者等 93名

内 容

○基調講演「求められる公民館の役割」

講 師 関西学院大学 経営戦略研究科

教授 日 廻 文 明 氏

○活動報告「城下町づくり」

～歴史探訪ウォークラリー～

発表者 中津市南部公民館

館長 柚 木 更 治 氏

○講義「公民館における人権教育」

講 師 大分県教育庁人権・同和教育課

主任社会教育主事兼課長補佐(総括)

川 野 和 人 氏

参加者の声から

- 地域課題、特色を把握した上で「サークル・学校・地域・企業」との連携、コーディネートを公民館が果たしており参考になった。
- 自分の市に置き換えて考えることができた。歴史探検ウォークラリー当日までの積み重ねに感動した。
- 人権の話はとても理解しやすかった。



テーマ別研修会①

期 日 令和元年6月25日(火)
会 場 県立図書館
参加者 県内各地の公民館関係者
 及び社会教育関係者等 50名

内 容

○事例発表

「このまちに誇らしたいプロジェクト」

～中学生がつくる30年後の未来のために今できること～

発表者 (公財) 広島市文化財団 古田公民館

社会教育主事 為 政 久 雄 氏

○講義

「住民自治活動を支えるリーダーシップ」

～ソーシャル・キャピタル論の視点から～

講 師 愛媛大学教育学部

教授 露 口 健 司 氏

参加者の声から

- 多世代で交流し次世代を育てる環境づくりは大切である。
- 地域のまちづくりにコミットしていく公民館運営・役割についてヒントを得た。
- つながることが地域や人々の幸福になることを感じた。自分の地域でどのような「つながり」があるか確認したい。



テーマ別研修会②

期 日 令和元年7月17日(水)
会 場 県立図書館
参加者 県内各地の公民館関係者
 及び社会教育関係者等 28名

内 容

○講義「地域づくりに役立つ公民館活動」

講 師 佐賀大学大学院 学校教育学研究科

教授 上 野 景 三 氏

○演習

「地域資源を活かした公民館講座の組み立て」

進 行 県立図書館 学校・地域支援課

社会教育主事 鹿 島 嘉 節 氏

参加者の声から

- 公民館と地域などの関係で館の存在意義に疑問があったが、必要性に気付いた。
- 各市町村の課題が共通しているものが多いので、取り組み方などで参考になることがありよかった。
- 他地区の公民館の意見が聞けてよかった。



第70回大分県公民館研究大会

豊後高田大会

期 日…令和元年10月16日(水)
会 場…豊後高田市中央公民館、
豊後高田市教育会館

「社会教育法制定から70年、令和時代の公民館の在り方とは」をテーマに豊後高田市中央公民館をメイン会場として開催。県内から約300名の公民館関係者が一堂に会した。



基調講演

演 題 「人づくり・つながりづくり・地域づくりの拠点としての公民館」

講 師 香川大学地域連携・生涯学習センター
センター長・教授 清國 祐二氏

・地域の子どもにどんな力を身につけさせたいか? コミュニケーション能力など様々なことを言われるが、やはり、挨拶ができることが大切である。
・地域の子どもに本当に幸せになってほしい、将来大活躍してほしい。そう考えるのであれば、見過ごすのではなく、挨拶ができる子どもになるように行動するべきである。
・小さな損を引き受けて、大きな得を作る。地域づくりの基本である。みんなが得を取ろうとすれば地域は殺伐としたものになってしまう。
・地域の特色を見極めながら、「ひとづくり、つながりづくり、地域づくり」…自分自身が学んで、その次に思いを持つ人を広げて、地域づくりにつなげていく必要がある。そのための拠点としての公民館づくりが求められる。



分科会概要

第1分科会 「地域づくり」

テーマ
地域課題に対応した公民館活動の在り方
(主な質疑)

Q 仕事をしている若手を役員にするのは難しいが、どのように仕組んでいったのか?
A 若手が参加しやすい夜間に会議を開いたり、若手の

意見を取り入れ運営方針を見直したりした。また、会議の開催頻度を減らしたり、会議時間を短縮したりすることにも取り組んだ。

(助言者より)

・地域で支え合う環境づくりが必要である。防災体制を含め、地域の課題は地域で探して解決することが大切。
・行政の課題を意識した活動が必要。「住みたい地域づくり」のために、公民館が「人材づくり」に貢献してほしい。



第2分科会 「教育の協働」

テーマ
教育の協働と地域教育力の向上の核となる公民館の在り方
(主な質疑)

Q 公民館において、地域の人たちの果たす役割は?
A 地域学習では、地元の観光協会などに協力してもらうつもりである。キーキ作りでは、地元に住んでいるヘルスメイトに講師をお願いしている。活動を見直す中で、地域や市全体を見ながら協力をおおきたい。

(助言者より)

・ボランティア活動が長続きするためには、それぞれの地域の方の得意分野を生かし、その中で社会貢献ができていれることを実感してもらい継続することが大切。
・学校ではできない体験を子どもたちにもしてもらうために、地域のみなさんと協働で、家庭も取り込み、創意工夫していろんな事業を行う必要がある。これが公民館の仕事である。



第3分科会 「人権・同和教育の推進」

テーマ
人権を尊重し、明るい社会づくりに資する公民館の在り方
(主な質疑)

Q 昔は「向こう三軒両隣」という言葉があるように地域につながりがあったが、今は隣の人を何をしている

かわからない。つながりをつくるには?

A 「困ったときにあの人に聞けば」といった関係をつくり、一人で抱え込んだり悩んだりしないで済むようにしていきたい。同じように人権教育に取り組んでいる団体が複数あるのにお互いにその活動内容を知らないことが多い。まずそれを知ろうと取り組んでいる。

(助言者より)

・公民館活動の中に位置づけられている人権教育を推進するためには、活動を魅力あるものにする必要がある。なぜ、人権教育が必要なのか。入り口のところで興味を湧くように、学びの機会を作っていかなければならない。
・部落差別解消推進法の認知度は低い。まず、知ることが大切である。人権を尊重する地域住民がいることが住みよいまちづくりにつながっていく。



第4分科会 「自治公民館活動」

テーマ
豊かな地域づくりを担う自治公民館活動の在り方
(主な質疑)

Q 高齢者の参加率が高い理由は?
A 敬老会には年齢制限を設けていない。また、参加者にも会の運営の協力をいただいている。参加者が主体的にかかわれる場を作っている。

(助言者より)

・行政区の大小と地域のまとまりに関係性はない。リーダーの果たす役割が大きい。まとまりができると地域の公民館が俄然力を発揮する。地域のネットワークができていくと地域の公民館が活性化される。すると、さらに地域が活性化するという好循環が生まれる。
・公民館によって、地域性、規模、職員、やっていること等は違う。正解を知っている人はいない。悩み困りを解決するために模索してほしい。皆で話し合っ



大分地区公民館連合会は、由布市、臼杵市、津久見市、大分市の公民館相互の連携を図り、公民館活動の発展に寄与する目的で組織しており、会員は大分地区社会人権教育研究協議会と重なっている。

この2つの組織が公民館関係職員との資質の向上を目的として、毎年「合同研修会」を実施している。本年度は令和2年2月に大分市植田公民館にて開催し、各市からの出席者64名が、講演会、実践事例研究、情報交換に参加した。

今回の合同研修会では特に講演会の充実に重点を置き、大分地区公民館連合会は家庭教育に関する講演会に九州で唯一のキッズコーチングトレーナーを講師として招聘した。参加者からは、「キッズコーチングという子育ての理論が勉強になった」「講座に参加する子どもたちだけでなく、大人の公民館利用者への対応にも役立つと思った」という感想があった。



あった。

また、大分地区社会人権教育研究協議会は社会人権教育に関する講演会に徳島県から講師をお招きした。「部落差別の当事者のお話だったので説得力があった」「差別に苦しんでいる人に対して、その人の背景を考えたうえで対応しなければいけないと思った」という感想が聞かれた。

講演会後、「社会人権教育」「青少年教育」「高齢者教育」の3分科会に分かれて事例発表及び情報交換を行った。それぞれ分科会では、各市の地域性やネットワークを生かした具体的な実践事例の発表があり、大変参考になるものであった。また、各市の参加者からも特徴のある取組が紹介され、明日からの公民館の教室・講座等の企画・運営に生かすことができる有意義な会となった。

次年度以降も各市の公民館関係職員と交流しながら実りある研修会を重ね、公民館活動の活性化に努めていきたい。



大分市市民部市民協働推進課

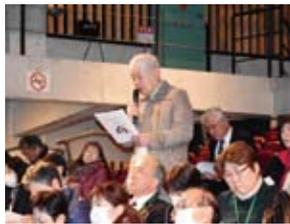
松本 紀子

豊肥・佐伯地区公民館連合会

豊肥・佐伯地区公民館連合会は、佐伯市、豊後大野市、竹田市の公民館で組織し、地区公民館相互の連携を推進し職員の資質向上を図るとともに、公民館活動の振興発展に寄与することを目的に、公民館関係職員との研修、情報交換、調査・研究などを行っている。

2月5日(水)に豊後大野市神楽会館で開催された本年度の研修会では、(公財)広島市文化財団 古田公民館 社会教育主事 為政久雄氏を講師としてお招きし、中学生が住民とともに将来像を描き、大人になってもずっと暮らしたいまちづくりを目指した「住民自身でできる活動」の取組について、また、その取組の成果と展望、公民館の役割についてご講演いただいた。

中学生の声から始まった行動であることが、多世代の交流につながり、活動に広がりがあったこと、多世代の交流が、大



人にとつての人間形成の場となる第3の居場所づくりにつながったことなど、プラスの連鎖がうまれた古田地区の取組から学ぶことは多く、人口減少という同じ課題を持つ私たち参加者にとつて、今後の公民館活動のヒントを得るよい機会となった。当連合会では、引き続き地域における公民館の現状と課題を共有し、意見交換を行う中で、これから求められる公民館の役割と在り方を研究協議し、公民館活動の一層の充実・発展を図っていきたい。

竹田市教育委員会生涯学習課

足達 亜美

わがまち公民館



豊後高田市中央公民館

豊後高田市中央公民館
館長 矢野 省三

当館は成人式を始めとした市の行事の中心会場となる文化会館的な要素と、市中心部の高田、桂陽の二地区の地区公民館としての役割を担っている。

生涯学習教室は五十六教室。文化協会、自治会、支援団体の利用を始め市の中心部にあるという立地からその他一般利用も多々ある。公民館の主催事業は十あり、今年度は、「百人一首教室」が新しく開講した。今回は昨年度から復活した「子ども茶道教室」を紹介する。

二年前に豊後高田市に移住された方（現在の指導者）から、「公民館を利用して気楽にお茶を楽しむ会をもちたい」と相談があり、最初は大人で計画したが、あまり人が集まらなかった。そこで、子ども対象（親子）の教室の開催を打診したところ、前向きな返答が得られた。丁度、公民館で行っている「わくわく体験活動（小学生対象の月一回



の様々な活動）で実施したところ好評で、継続した開催を希望する児童、保護者が多かったので早速募集要項を小学校に配布し、四月から月一回の「親子茶道教室」の開催となった。一年目は指導者三名、児童は二十名を超えた。指導者の意向により子どもも教室とはいえ、準備するお花、軸、お菓子は季節、月ごとの本格的なものである。保護者の方の参加も毎回六〜七名程度あり、教室生の人数も多いため、経験のある保護者の方にもお手伝いしていただいた。三月には子どもたちの活動の様子を地域の方にも見ていただきたいとの思いから、公民館祭で「花いろ茶会」を無料で開催した。

今年度は、開催の連絡、出欠の確認、会計など事務的なことを軽減するため保護者でラインを組んでやり取りを行った。保護者の参加も多くスマホで写真や動画を撮り、アルバムを作製してくれる方もいるので、家庭でもわが子の活動の様子を見ることができるようになった。どの子も月一回の教室を楽しみに通っている。

別府市西野口町公民館

別府市西野口町公民館
館長 河合 規充

全ての世代に寄与する 公民館活動を目指して

西野口町は、別府市の中心部に位置する町で、令和2年1月末現在678世帯1,221人が暮らしている。西野口町公民館を運営する西野口町自治会では、高齢の参加者が多い従来からの行事は続けつつ、これから担う子どもたちを対象とした事業にも力を入れたいと考え、平成22年、保護者への負担から加入者が減少していた「子ども会」を廃止すると同時に、自治会加入世帯の小学生を

対象に自治会が各行事を企画・運営する「育成部」を発足させ、毎年7月の日帰りバスツアーや12月のクリスマス会などを行ってきた。

さらに昨年度は、これまで大人対象に企画してきた防災訓練を子ども向けにも、と考え「キッズ防災体験キャンプ」と「キッズ防災



食体験」の2事業を実施、平成30年7月に別府公園で実施した1泊2日のキャンプでは、小学生とその家族など43名が参加し、災害用貯水槽からの水汲み・防災O×クイズ&カルタ・防災運動会などを体験、また翌年3月に開催した防災食体験では、近くの小学校を会場に28名が防災食づくりなどに取り組んだ。

これまで当自治会では、高齢者向け行事では参加者が募り易かった一方、子どもやその親世代との繋がりが薄かったが、育成部行事に参加した子どもたちの保護者が他の行事を手伝ってくれるなど、これら子ども向け事業は公民館活動に携わる世代を広げる成果を生んでいる。

現在は、全国的に課題となっている避難行動要支援者の災害時対応について、新たに繋がることのできた若い世代の協力を求めることなども検討しており、子どもから高齢者まで全ての世代に寄与する公民館活動を目指して、これからも創意工夫を凝らしていく所存である。

第70回九州地区公民館研究大会 佐賀大会に参加して



令和元年8月29日（木）～30日（金）に開催予定でありました本大会は、直前の佐賀豪雨災害のため延期となり、令和2

年1月14日（火）に全体会のみ1日開催となった。まずは、被災された方々にお見舞いを申し上げる。

大会テーマは、「社会教育や公民館の隘路を拓く」がばい つながろー 人と人」と掲げ、佐賀弁の「がばい」とは、「とても」「非常に」という意味で、人と人とのつながりが、地域をつくり、幸せに生きることができる地域社会の実現につながるものとして、社会教育と公民館の必要性が「がばい」重要であると感じた。

シンポジウムでは、「社会教育法制定70周年」。そして地域のこれから。というテーマで討議が行われた。

少子高齢人口減少社会から人生100年社会へ、子どもたちを主役に持続可能な社会をつくる必要がある中で、また、AIが人間に取って代わることができる領域に参入してくる時代で、すべての子どもたちに豊かな「学び」の機会を確保し、脱工業社会の学力（共生・生成・変化のための学力⇨人を目的とする学力）として、ふるさとをつくり支える学力、自立と承認と自治の学力、ひとを固有性として見なす学力、「ふるさと」をつくり支える学力を身に付けることの大切さを強く感じた大会であった。

豊後大野市教育委員会 社会教育課

主幹 造士 明子



当初8月29日から2日間予定されていた大会が記録的な大雨の影響で延期され、年明けの1月14日に規模

を縮小して開催された。

そのため研究内容はシンポジウムのみとなった。冒頭、コーディネーターの佐賀県社会教育委員連絡協議会上野会長の趣旨説明に続き、パネリストの東京大学大学院の牧野教授の基調提案があり、その後パネリストからの取組等の発表があった。時間の都合で白熱した議論とまでは行かなかったものの、このシンポジウムからは「小さな社会をたくさんつくる」という貴重なキーワードを頂いた。今年度の中津地区公民館連合会の研究テーマは「人生100年時代を見据えた公民館」「人と人につながる場を創出する公民館活動」として研究を行っており、今回の研究内容はまさに中津地区の研究テーマに沿ったもので、新たなつながりを形成する公民館の役割の重要性を再確認し、公民館から小さな社会をたくさんつくるための研究を続けたい。

豊後高田市中央公民館

総括主幹兼指導係長 河野 典之

第31回全国公民館セミナーに参加して

公民館のあり方、働く職員の立場も多様な中、現場のニーズを捉えた、かつ必要な研修内容で構成された2泊3日のセミナーだった。講師の方々、94名の参加者から多くのことを学ぶことができたが、中でも私が研修後まず取り組まなければならないと思ったことは「地域課題の仮説」の明文化である。そのために、先進事例の「那覇市若狭公民館」館長さんは、①地区の数字を把握し、比較する。②多様な地域住民から話を聞く。③地区を歩く。この3つのことを心がけているということだった。

「新しい時代の公民館広報戦略」では、すでにFacebookやYouTubeなどを積極的に活用している公民館があることを知った。

「若狭公民館」や「月刊公民館」と検索してみると、どのように活用されているかがわかる。今回の研修では、グループごとにiPadが用意され、movieという無料アプリを使って、実際に講座の告知動画を作る体験ができた。

セミナー最後の講義「公民館を地域づくりの基盤に」では、「子どもたちが『はさま』に落ち込まないために、小さな社会をたくさんつくる」、また、AIにできないことを意識しつつ「子どもたちが『学び続ける力』をつけるための学びの機会を保障する」というメッセージが印象に残った。



九重町公民館・文化センター
グループリーダー 畑山 伸恵

地域力を高める公民館活性化モデル事業の取組

由布市上瀧(瀧6区)公民館

瀧6区は健康増進を課題として、バスウォーキング・グラウンドゴルフ大会・料理教室・健康研修と様々なイベントを実施した。また、日常的な取組として、毎週のシニアエクササイズ、月1回のグラウンドゴルフ練習会を継続実施するなど、地域力の向上が感じられる1年となった。

また、これまでの取組の中で新鮮だったのは、自治区外部の若者と交流ができたことであった。連携している大分大学の学生や由布市の青少年たちが料理教室やグラウンドゴルフ大会に参加してくれたことで、若者との交流による刺激を受けることができ、住民も生き生きと活動していた。

今後とも活動を継続し、より健康で元気のある瀧6区を目指していく。



若者と一緒に料理教室

由布市海老毛公民館



住民が協議をしている様子

かつての海老毛地区は農家がほとんどで、仕事の助け合いが日常的であったことから地域活動も盛んであった。ところが、住民の就業形態が徐々に変わっていくにつれて集まる機会も減り、地域活動は衰退、婦人・青年会等の組織もなくなってしまう。

そのような状況の中、なんとかしなければと思いついた住民が中心となり、行政・大学・民間有識者を合わせた4者で地区の活性化に向けた協議を数回実施した。組織の再編や事業の復活を一行に行うと地区の息切れが予想されるため、まずは規模が小さくても楽しく集う機会を作っていくことにした。お花見・外部交流など協議で出たアイデアを形にしていきたいために、住民のつながりを広げていきたい。

佐伯市西上浦地区公民館

佐伯市西上浦地区公民館では、昨年11月25日に、高齢者の引き籠り防止と地域間、世代間の交流促進を目的に、焼かずに固まる「つちだま粘土」を使った陶芸体験教室を開催した。当日は、地区内外から、30代から80代までの幅広い年齢層の女性20人の参加があり、福岡市で「手遊び工房和居2我家2」を主宰する原先生のご指導のもと、文字通り「ワイワイガヤガヤ」の楽しい雰囲気の中、ガーデニングのオブジェや花瓶などのオリジナル作品を制作し、参加者相互の交流を深めることができた。今後とも特色ある事業を企画・実施し、地域の活性化と、共に支えあう地域共生の意識醸成を図っていきたいと考えている。



陶芸体験教室の様子



竹田市中央公民館宮城分館

宮城地区は、竹田市の西部に位置する人口680人ほどの集落である。高齢化率は60%を超えるが、年間を通じて、しだれ桜まつり、小松明まつり、食彩まつりなど様々なイベントを開催。特にしだれ桜まつりは盛況で、県内外から多くの方がこの地を訪れる。

しかし、これら地域挙げてのイベントも高齢化・過疎化の波にのみこまれてしまいそうで、今、何か行動を起こさなければ!という思いから、地域が抱える問題解決の糸口を探り、住民が力を合わせ活力ある地域社会の再生を進めていくことを目的として本研修会を企画。

行政に頼らないむらおこしを実践している豊重哲郎先生からの言葉、「人は財産(宝)」「地域活動に補欠はいない(総力戦)」は、今も心に響いている。この研修会で、参加者が何かを感じ再生の糸の端がつかめるのと期待している。



講演会の様子

お知らせ

表彰

大分県公民館連合会表彰

「公民館勤務職員」

国東市旭日地区公民館 館長

山本 泰光 氏

国東市豊崎地区公民館 主事

高井 明德 氏

国東市上国崎地区公民館 主事

猪部 敬彦 氏

大分市大南公民館 前館長

帯刀 修一 氏

日田市朝日公民館 前館長

山中十士男 氏

日田市西有田公民館 前館長

馬場 一 氏

日田市夜明公民館 前館長

藤野美佐子 氏

「公民館運営審議会委員表彰」

杵築市中央公民館 公民館運営審議会委員

赤井三代子 氏

杵築市中央公民館 公民館運営審議会委員

藤松 美潮 氏

杵築市中央公民館 公民館運営審議会委員

岩尾 豊文 氏

由布市湯布院公民館 公民館運営審議会副委員長

伊藤 正穂 氏

由布市庄内公民館 公民館運営審議会副委員長

橋本 裕元 氏

由布市湯平地区公民館 公民館運営審議会委員長

熊谷 基光 氏

日田市五和公民館 公民館運営委員会会長

熊谷 基光 氏

広報コンクール表彰

「公立公民館報の部」

優秀賞

宇佐市四日市公民館

「四日市公民館だより」

宇佐市津房地区公民館

「津房地区公民館便り」

宇佐市佐田地区公民館
「さだ公民館だより」

優良賞

国東市熊毛地区公民館

「熊毛地区公民館便り」

宇佐市安心院中央公民館

「安心院地区公民館だより」

「自治公民館報の部」

優秀賞

別府市朝見一丁目一区公民館

「公民館のしおり」

玖珠町浦河内地区振興会

「月刊「浦河内」」

別府市原町自治会

「はらまち」

優良賞

別府市鶴見町自治会

「鶴見町自治会公民館だより」

別府市観海寺公民館

「観海寺公民館だより」

「ポスト・チラシの部」

優秀賞

大分市植田校区公民館

「第12回植田校区公民館まつり」

別府市朝見一丁目一区公民館

「めざせ！健康・長寿」

「高齢者のためのヨガ教室」

別府市朝見一丁目一区公民館

「8月は温泉エチケット強調月間です。」

優良賞

別府市朝見一丁目一区公民館

「第2回紅葉祭り」

国東市熊毛地区公民館

「第10回熊毛地区大演芸祭」

令和2年度 事業の予定

大分県公民館連合会関係

諸会議

会計監査

期日：4月8日(水)

場所：大分市(県庁舎)

内容：元年度会計監査

第1理事会

期日：4月23日(木)

場所：大分市 県立図書館

議事：元年度事業報告、

2年度事業計画等

総会

期日：5月28日(木)

場所：大分市 県立図書館

議事：元年度事業報告、

2年度事業計画等

第2回理事会

期日：7月28日(木)

場所：大分市 県立図書館

議事：第71回大分県公民館研究大会、

大分県公民館連合会表彰等

各地区公民館連合会会議

期日：随時

場所：県内5箇所

内容：県内5地区で実施

各地区公民館連合会研修会

期日：随時

場所：県内5箇所

研究

大分県公民館関係職員研修会

期日：5月28日(木)

場所：大分市 県立図書館

大分県公民館テーマ別研修会①

期日：7月17日(金)

場所：県立図書館

大分県公民館テーマ別研修会②

期日：9月4日(金)

場所：県立図書館

第71回大分県公民館研究大会

期日：10月20日(火)

場所：日出町中央公民館他

表彰

大分県公民館連合会表彰

期日：10月20日(火)

場所：日出町中央公民館

※第71回大分県公民館研究大会において

表彰

情報提供

機関誌「ひろば」発行

期日：2021年3月

ホームページによる情報収集・提供

期日：随時

九州公民館連合会関係

第1回会長会

期日：4月16日(木)

場所：熊本県熊本市

議事：会長等役員選出等

第1回理事会

期日：4月16日(木)

場所：熊本県熊本市

議事：元年度事業報告・決算報告、

2年度事業計画・予算案等

第2回会長会

期日：8月26日(水)

場所：熊本県熊本市

議事：九州公民館連合会役員表彰、

九州地区公民館研究大会等

第2回理事会(水)

期日：8月26日(水)

場所：熊本県熊本市

議事：九州公民館連合会表彰、

九州地区公民館研究大会等

第42回全国公民館研究集会熊本大会

期日：8月27日(木)～28日(金)

場所：熊本県熊本市

大会テーマ：「開かれ、つながる社会教育の

実現を目指す」～地域コミュニティの

維持と防災拠点としての役割」

事務担当者会

期日：1月21日(木)

場所：福岡県福岡市

議事：2年度事業報告・決算見込、

3年度事業計画・予算案等

公益社団法人全国公民館連合会関係

総会

期日：6月3日(水)

場所：東京都

議事：元年度事業報告・決算報告、

2年度事業計画・予算案等

第42回全国公民館研究集会熊本大会

期日：8月27日(木)～28日(金)

場所：熊本県熊本市

全国公民館連合会表彰

期日：8月28日(金)

場所：熊本県熊本市

※第42回全国公民館研究集会熊本大会

において表彰

第32回全国公民館セミナー

期日：1月下旬

場所：東京都

※本県公連から1名を推薦